

① はまなか

議会だより

NO 119

平成29年1月15日発行



たのしい餅つき大会（茶内第一）

12月定例会

予 算 議	新庁舎建設の基本設計委託料の概要を問う ほか	3P~5P
一 般 質 問	3人の議員が町政を問う	9P~11P
	麗 澤 （雪田 千咲さん）	12P

年頭にあたって



浜中町議会議長

波岡玄智

輝かしい平成29年の年頭にあたり、謹んで新春のお慶びを申し上げます。

米大統領選をはじめ英国のEU離脱、中国の海洋進出、シリア内戦の泥沼化、難民の流出、IT産業によるグローバル化など、世界は人類が近代国家として、やっと辿り得た普遍的価値観といわれる自由、人権、民主主義、法治主義をも形骸化への傾向を呈し、格差社会の顕在化はまさに混沌の様相を深め広く不安感が覆っているように思います。

我が国においても、デフレからの脱却を掲げたアベノミクスの三本目の矢が効力を持ち得ず内閣府による月例経済報告においても「景気は緩やかな回復基調にある」とされていますが、人口減少・少子高齢化など諸課題を抱える中、地方経済においては好景気を実感でき得ない状況が続いております。本町の酪農業は、天候不順による牧草への影響が心配されておりましたが、生乳生産量は11月末現在で前年同期を1・8割上回る状況で推移しているとのことであるので安堵しております。

漁業においては、太宗の昆布漁が台風による高波により、特にお盆以降の盛漁期の操業が制限されたため、前年実績を14割も下回る水揚げ量となり、サンマ漁においても薄い魚群と漁場の遠さから量・金額ともに昨年を大きく下回り、自然の恵みを生業とする私たちにとって大変厳しい1年となりました。

一方、9月には霧多布岬灯台が「ロマンズの聖地」としての価値が認められ、全国で20カ所、北海道では唯一の「恋する灯台」に認定され、「ルパンの町」と相俟って観光資源としての可能性に期待しております。

懸案でありました防災機能を備えた役場新庁舎建設は、2年余の議論を重ね、昨年10月臨時会において全会一致で可決を致しました。この間の議論は、すべからく愛郷、愛町の発露として次代に誇れる庁舎建設に英知を結集し取り組んでいかなければなりません。

これからも諸課題解決に向け一層審議の深化に努め、皆様の負託に応えていくことをお誓い申し上げます。年頭のご挨拶といたします。

浜中町議会

議長 波岡玄智

副議長 菊地哲夫

議員 加藤弘二

同 堀金澄恵

同 鈴木誠

同 中山真一

同 秋森新二

同 成田良雄

同 三上浅雄

同 前田光治

同 川村義春

同 田浦哲朗

一般会計 補正予算

役場庁舎建設工事基本設計 委託料6694万円を含む

12月 定例会

7日～8日

1億1461万円を追加 予算総額65億9305万円に

☆臨時会(10/28開催)で、役場の位置を湯沸445番地に定める条例を全会一致で可決!

補正予算 審議から

12月定例会が7日・8日の2日間の会期で開かれ一般会計、国民健康保険特別会計、介護保険特別会計、浜中診療所特別会計、下水道事業特別会計、水道事業会計の補正予算と条例制定(追加議案を含む)21議案が上程され、いずれも原案どおり可決しました。また、教育長の任命同意は満場一致で可決。一般質問では、3人の議員が登壇しました。

コンビニ収納導入の目的は

問 電算システム運用に要する経費のコンビニ収納システム49万円と徴収事務に要する経費で納付書の印刷製本費31万円の内容は。また、新年度で380万円を費やして実施しようとする必要性和メリットは。

ニ・郵便局でも払えるように変わるだけで従来の納付書と同様、役場や金融機関でも払える様式となっている。

対象税目は町民税、固定資産税、軽自動車税、健康保険税、後期高齢者保険料、介護保険料の6科目。コンビニ納付される予定件数は2000件程度を予定している。

また、コンビニ収納のメリットは24時間利用可能であること。役場は8時30分から5時15分までかつ、土曜、日曜日、祝祭日も休みであるため、農作業や漁業で忙しい時期に税金を払う窓口が無く、苦情も寄せられていない。

早期や夜間に払える窓口を広げることで町民の利便性を高めることを目的に導入しようとするもの。

将来的には全ての税外金を対象に思っている。平成30年度は、住宅使用料、土地建物貸付使用料、一般の水道料と農業用水などを検討している。

象税目以外の町営住宅料など税外金への導入予定は。
答 コンビニ収納を29年4月から始めるための準備費用として80万円の補正予算を計上。

この予算では仮の納付書を各コンビニに送り実際にできるかテストするもので、その結果を得るに3カ月を要するため、1月から3月までのテスト用納付書の印刷代とそれに伴うシステム改修費である。

納付書の形体がコンビニ



庁舎建設の 基本設計委託を質す

新庁舎建設の 基本設計委託料の概要は

問 委託料6694万円の概要と委託の基になる「基本構想」(素案)が示されたが、一番の問題は建設場所であるのか。山の上を除き、浸水域を超えた低い場所や中間に建てる場合は、がけ崩れや土砂崩れが無い庁舎を造るための設計も大事である。

また、町民が「我らの庁舎」として建設に意見を反映できるような機会をつくることも大事。さらには庁舎の各階の配置や避難道もこの委託設計に盛り込まれているか。

答 委託業務の概要は、調査・測量業務が40割、基本設計業務が60割である。測量業務は、地質調査と用地測量など。

基本設計業務は庁舎建設設計のほか外溝や道路の設計である。

建設場所も治山・治水を含め設計されるほか主な配置は基本構想案に示している。

防災機能を備えた庁舎ということでは有事の際の避難者を収容できるように各階に会議室や相談室、休憩室を備え、3階には大きな会議室を備える。

飲み水と生活用水を考慮した貯水槽や合併浄化槽の設置など町民の利便性に配慮した配置を考えている。

また、町民の皆さんからの意見の聴取や建設場所など情報の発信、周知は委託業者が決まり、ある程度基本設計がまとまった時点で広報誌やホームページ、自治会配布を通じて行いたい。避難道の設計は建設場所が決まってからの設計となる予定である。

庁舎建設の手順を問う

問 同僚議員の一般質問を経て基本構想の素案なるものが今朝配布されたが、2年半ほど議論を重ねようやく建設場所が決まったということでは、町民の関心が非常に高い事業である。30億円を超えるといわれる巨額を投じての事業であり、きちんとした順序を定めていく必要があると思う。

インターネットで他市町村の庁舎建設の手順を見たが多くがきちんとした順序を踏んで基本構想をつくり、基本計画もつくり、住民の意見を聞いている。

このように基本設計委託費を予算計上する前に議会並びに町民に構想の概要を知らせるべきであり、構想をつくる過程で先進地の庁舎視察などもすべきで、手順が違うのでは。現在地に建設の意思を表

明されて今日までの数カ月間で、構想なり、計画なりの下準備はどうだったのか。手順が違うことに関して考えがあれば説明を。

委託業務の発注にあつては基本的な構想と計画が示され、それに基づいて業者は受注するのが手順。競争入札の指名基準は、業者の実績などを調べての選考か。また、構想に基づいた基本計画づくりの意見聴取は大事なこと。50年、60年と使っていく浜中町の中心となる庁舎であることを踏まえ、多くの意見を参考にしたい。町民が満足できる使い勝手の良い庁舎を造っていく必要がある。意見聴取のきめ細かなスケジュールを構想に盛り込む確約を。

答 これまでの庁舎改築に関する構想の蓄積があつたが、面積など一部確定しない面もあつたので成案としていない。

手順が違うとのことであるが予算計上に向け、各調査項目の積算は数字的に出したが青写真なるものを細

部にわたり確定しなければならなかった。

基本設計発注後に業者と相談し、基本構想を取りまとめた後に成案として提示する予定であった。今後は手順を踏んでいきたいと思っている。

委託業者の選考は、過去の実績に基づいて指名競争入札を考えている。基本構

想あるいはそれに向けての仕様書などを示して協議を進めることから、結果的に町が考えている青写真など具体的な設計内容が出てくると思っている。

また、町民からの意見聴取のスケジュールを盛り込んだ基本構想を実施設計前に策定し、然るべき時期に意見聴取を実施したい。

庁舎建設用地の確保は

問 庁舎建設で一番大事なのは用地取得と思うが、どのような体制の下で交渉しているのか。

庁舎建設用地の取得は無償ではなく条件があると思うので、きちんと聞いたうえで交渉経過を文書で交わすべきでは。

る条例改正可決後に町長が住職に用地の件で挨拶に出向いている。

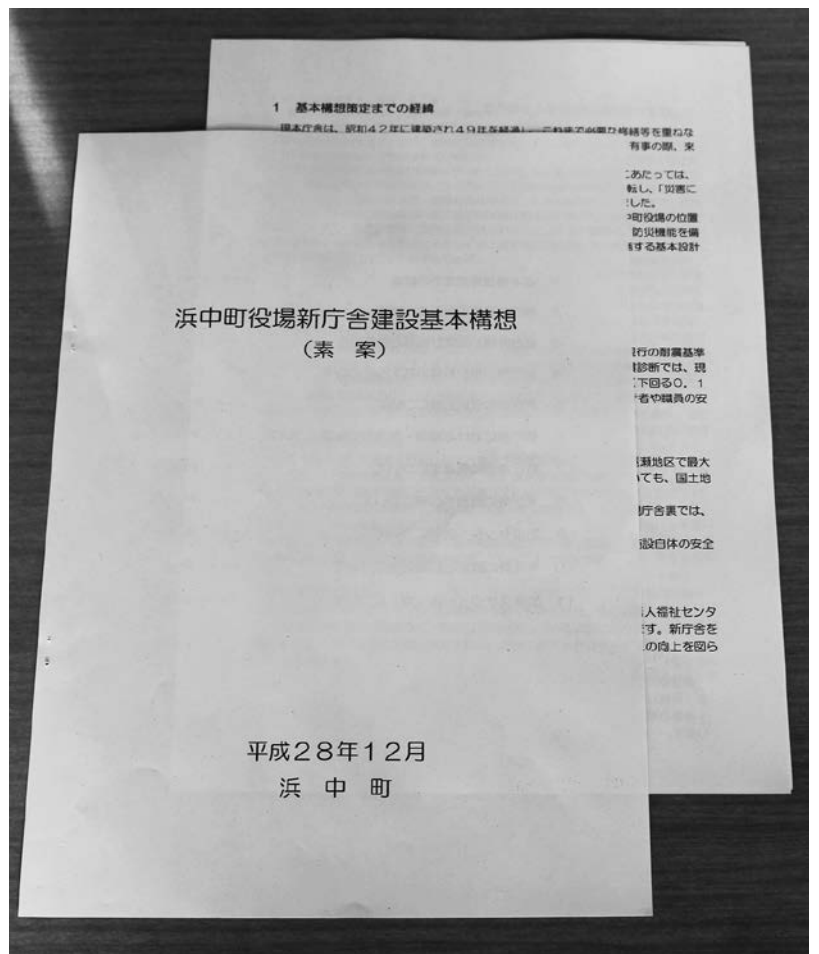
また、隣地にも民有地があるが、所有者には実態を理解していただいているので、これから具体的な交渉を進め、文書で残したいと思っている。

答 庁舎建設用地の取得交渉は総務課の担当係で進めているが、新庁舎の地番となる湯沸445番地は、祥雲寺所有の土地であり、10月28日の庁舎の位置を定め

基本計画の策定と委託業者の選考は

問 基本構想は基本設計の成果を待つて成案にすることだが基本計画はいつの時点で策定するのか。

なお、基本設計の委託業者の選考は指名競争入札とすることであるが、コンペ方式やプロポーザル方式がある。現在取り入れられている手法は、技術力、経験、意欲、取り組み体制、柔軟性、



答 基本計画の策定は基本設計と並行して策定して行きたいと思っている。

幅広い判断基準から優れた設計者を選定し、住民の意見や要望を反映しながらその設計者と協議して設計を進めることができるプロポーザル方式が主流となっている。その手法の導入を検討すべきでは。

答 基本計画の策定は基本設計と並行して策定して行

なお、基本設計の委託業者選考方法は、時間的な余裕がない中で、建てる場所の検証や地質調査測量、庁舎本体の構造、各課の配置などを設計することからプロポーザル方式ではなく、実績と経験のある業者を指名しての競争入札を考えている。

新庁舎建設への思いは

問 庁舎の建設時に携わることになった町長として新庁舎建設に際し、どんな庁舎にしたいか。特色あるものにするのか。町長の理想や夢は。

答 どのような庁舎を建てたいかと言えば、最初に執行方針で述べた防災機能を備えた庁舎を建てること

基本。庁舎の外観などをどうしたいかを聞かれたので

しょうが、それは基本設計から実施設計の段階で少しずつ変わってくると思っています。町長の意思、思いはしっかりスタッフに伝えてあるので防災機能を備えた庁舎、立派な庁舎を造っていきたい。

庁舎建設位置の確認と地域ごとの人口ビジョンは

問 庁舎の建設位置に関し構想案では可能な限り低い位置に建設するよう取り組みとの表現がある一方、極力切り土・盛り土の経費の掛からない場所を選定する旨の説明があった。裏山の中腹を削って整備するのは頂上を整地する場合ではどのくらい用地整備費に差が出るのか。建設候補地点ごとに比較

検討した数値と整備費は高くなるが、ここに建てたいという場合の根拠を明確に示して欲しい。

また、これから先のまちづくりは人口ビジョン無くして考えられない。地域ごとのビジョンを議会に示せる時期はいつか。

答 庁舎の建設位置は津波浸水高8mを超える位置が基本であり、基本設計の中

で比較検討されるのでその結果を示したい。

また、地域ごとの人口ビジョンは3月の年度内位までに作成し、提示したい。

商工業への奨励補助は

問 町地域経済活性化促進奨励補助172万円が追加補正された。対象事業とその内容は。

答 ①乳製品製造業者が新たにヨーグルトの製造を開始するもので容器・ラベル・

外包装・パンフレットの作成事業費に550万円。

②水産食料品製造業者が行う昆布かりんとう・ホッキ燻製の新しいパッケージ作成事業費で91万円。

③同業者が行うウニギフト用の外包装・ギフト箱などの作成事業費に252万円。この3事業者に上限200万円で事業費の2分の1を補助するもの。

旧榊町小学校の活用概要を

問 旧榊町小学校を利用して行う予定の就労支援事業の内容は。また、委託料500万円の計上は改修に伴う実施設計ということだが、その内訳および今後のスケジュールは。

の人や観光客とふれあえるようにカフェなど憩いの場を開設したいと考えている。また、同校は建築されてから二十数年経っており、雨漏りしているので防水工事・外壁の改修塗装工事・事業に関わる内装工事・電気工事の実施設計を行うもので、平成30年度の開設予定である。



利活用が決まった旧榊町小学校

6次化支援事業補助の減額は

問 当初予算に計上があった「6次産業化ネットワークづくり支援事業補助」2100万円は事業不採択から減額補正となった。その理由と決定時期は。

また、建物など既に事業は進んでいるが事業者への

通知などの詳細は。

答 酪農家がヨーグルトの製造・販売を行う事業で27年度の同事業に係る商品開発・市場調査などでは事業採択となっている。不採択となった理由は道

から示されていないが、全道の予算枠内での審査から外れたものと思う。

当初予算措置後の3月に不採択の通知があり、直ちに事業者へ連絡し今後の対策などを協議した。

農水省へ同事業の6次産業化認定の申請をし、6月に受理され無利子融資が受けられることになり事業の継続が可能となった。

防潮堤改良に係る町債の減額は

問 霧多布港海岸防潮堤改良事業債（借入金）が当初予算で1230万円計上されたが、この度、全額減額である。その理由は。

基本設計と一部371㍓の実施設計で事業費3050万円を計上した。財源は国の社会資本整備総合交付金1677万円と、町債（借入金）1230万円、一般財源143万円であった。

答 津波対策として霧多布港海岸防潮堤嵩上げ改良事業の整備計画を策定し5年間で整備。初年度の28年度は当初予算では、

しかし、国からの交付金が880万円に減額となり、これにより基本設計1760万円のみとし、事業費は1290万円の減額となり、実施計画に係る町債を全額減額するもの。



嵩上げ工事が待たれる防潮堤

その他の主な歳出（一般会計）

歳出の内訳	金額
ふれあい交流・保養センター修繕料(熱交換器プレート清掃ほか)	156万円
障がい福祉サービス費(利用者増による追加)	1500万円
浜中町狩猟免許等取得助成金(新規2人分)	72万円
昆布小型選別機導入事業補助(浜中8台、散布11台)	730万円
町営住宅用備品購入(給湯器3台ほか)	114万円
釧路東部消防組合負担金(本部・浜中消防署)	1024万円
浜中中学校体育館暖房機改修	43万円
総合文化センター正面玄関入口キャノピー型庇補修	100万円
町スポーツ振興補助(8大会の不足分)	53万円
農村運動広場屋外照明補修	118万円
給食センター貫流ボイラー補修ほか	102万円

新「教育長」の任命に同意

教育委員会制度の改正により教育委員会委員長と教育長を一本化した新「教育長」の職が設置され、町長が任命し議会の同意が必要。

任期は平成29年2月1日～平成32年1月31日までの3年間となる。

内村定之氏は、平成29年1月31日をもって、現教育委員会委員（教育長）の任期満了となることから、制度改正後も引き続き適任と認め、全会一致で任命することに同意しました。



内村定之氏
(霧多布)

平成27年度 の各会計

決算を認定

委員長口頭報告

9月定例会で設置された決算審査特別委員会（田浦哲朗委員長）は、10月6日に質問事項を抽出し、11月10日・11日に各担当課に説明を求め質疑を行った。審査の結果、各会計の決算を認定すべきものと決した。

ただ、審査過程で出された留意点を口頭報告とした。

① 処理対応に2700万円余りを要した、勤労青少年ホームの灯油漏れ事故に関して、再発防止策として点検・管理マニュアルが作成された。

ただ、こまめな点検などを考慮すると職員だけ

での対応には無理があると思われる「協働のまちづくり」の視点からも、給油業者や施設利用団体・自治会と連携して持続可能な効果的な管理体制の構築を図ること。

さらに、油漏れ対策に限らず現在使用されていない町有財産の管理体制の強化も求められる。

② 全国的な問題になっている空き家対策について、その解消に向けた取り組みが必要である。

税制優遇制度・解体費用の補助・解体ローンの利子補給などの直接的支援や「空き家バンク」の創設による売買への橋渡しなど実施可能な施策の検討を図ること。

③ 各種収納業務の中でスキル・ノウハウを有する若い職員の力が十分活かされていない面が見受けられた。今後は職員の年齢構成からも、全ての部署において若い職員の能力と意欲を引き出し、その力を町政に活かして行く環境づくりが求められる。

条例制定を議決

□ 浜中町農業委員会の委員の定数を定める条例

・ 農業委員の選出方法が変わり市町村長が議会の同意を得て任命されることになったので、本条例を新規制定。委員の定数は13人と定める。

条例の改正を議決

□ 浜中町債権管理条例の一部を改正する条例

・ 債権管理の適正化に向けたさらなる事務の統一化を図るための一部改正。

条例を廃止

□ 浜中町勤労青少年ホーム設置条例

・ 勤労青少年の健全育成および福祉の推進を目的としていたが、これを達成するための事業活用がなされていないため平成29年4月1日から本条例を廃止。

今後は普通財産として管理する。

意見書

可決

◇ 大雨災害に関する意見書

・ 全国各地で台風により甚大な被害が発生し、住民のくらしや経済活動に多大な影響が生じていることから、住民が1日も早く安心して元の生活を取り戻すことができるよう早急な災害対策と今後の防災対策について国に要望した。（全員賛成）

◇ JR北海道への経営支援を求める意見書

・ 地域住民の日常生活に重要な移動手段である鉄道を北海道では公共交通機関としての役割を發揮できるように、国に対しJR北海道の経営が自立できるように財政支援などを図るよう要望した。（全員賛成）

可決された意見書は、内閣総理大臣をはじめ関係大臣、衆・参両議院議長に提出しました。

一般質問

川村 義春 議員



問

新年度のまちづくり 重点施策は

答

3本柱を堅持し 庁舎建設や後継者施策を

川村 平成29年度の重点施策は産業振興、災害対策、子育て支援の3本柱を軸に展開すると思うが重点施策の主要な概要は。

町長 重点施策は、現在進めている学校給食センターの建設や今後進める役場庁舎の改築などが主となるが、基本的には3本柱を堅持し、町総合計画や町創生総合戦略との整合性を図るほか、

まちづくり懇談会で出された緊急性の高い事業要望も施策に反映したい。

川村 産業振興では、ウニ種苗センター関連や後継者施策に関心が集まるが、新たに「産業後継者就業交付金制度」が創設され、4月からの運用は朗報である。その概要は。

また、災害対策では、防災機能を備えた庁舎の改築が最大の関心事。今定例会の補正予算で基本設計委託料6694万円が計上された。業務内容と発注時期、成果品の納期は。

町長 新年度から農・漁業商工業を営んでいる家庭の後継者を対象に今後、学業を終えた新規卒業生やユタイン者が後継して就業する場合、月額5万円、年間60万円を3カ年支援する制度である。

また、新庁舎の基本設計委託は、測量・地質調査と庁舎の基本設計、外溝と道路概算工事費の積算が主な業務。測量業務は、基準点・水準・現地・路線・用地測量であり、地質調査は、庁

舎分6か所、道路分5カ所のボーリングを予定。庁舎の基本設計は、建物RC造り3階建て、延べ床面積3800平方メートルを想定。駐車場を含めた庁舎建設の内観図・外観図・鳥瞰図も示される。発注は、1月で成果品の納期は9月頃の予定。

川村 基本設計後に発注する実施設計発注の時期や建設工事着手と完成までのスケジュールは。

町長 実施設計の発注は、平成29年11月。翌年8月建設に着手。平成32年3月末の完成をめざす。

川村 町民の意見提言などを実施計画に反映する進行管理体制は、庁内プロジェクトや検討委員会の設置をせずに総務課中心で進める意向だが、対応は可能か。

町長 新年度に向け、庁内PTや作業部会が必要となれば然るべき体制を検討する。



防災機能を備えた新庁舎改築へ始動

一般質問

加藤 弘二 議員



問 時化や台風で沖に出られなかった要因は

答 地球温暖化によるもの

加藤 棹前昆布漁は例年と比べてどうであったか。
町長 両漁協とも三日間の出漁で浜中は107・4トで12・8トの減。散布は75・9トで、昨年比21・5ト減でした。

加藤 そんな時期の漁師の思いは「夫婦二人して朝から一言も話さないでいた。出るのはため息ばかり。昆布は抜けて無いべと」アキレ笑いで話していた。
町長 被害額はどうかであったか。予測は浜中で10割の下方修正、散布では20割の下方修正。金額にして浜中漁協は1億7千万円、散布漁協で9千万円の損失だった。

加藤 11月28日の「環境講演会」によれば、気温は百年単位で観測した結果、1・7度上昇しており地球温暖化現象といえる。

また、北海道の南に大きな暖水塊があり、水深100メートルでは水温が8度、親潮は水深100メートルで5度なので親潮の水温を上げる役割をしているので、北上した台風の勢力を維持する要因にもなっているが対策は。

町長 温室効果ガス対策は、道町村会においても議論された。災害元年に位置づけ、今後災害を受けない対策を講ずるよう町村会で足並みをそろえて道や国に訴

えていく。

問 限られた資源の中で増産への道は

答 漁民と漁組の意向による

加藤 漁船漁業について近年温暖化現象による不漁が続いている。厳しい経営にある漁業者に行政として手を差し伸べては。

町長 状況はよくわかるが、漁業協同組合の意向に沿っ

て行政が支援する中で活路を見つけるしかない。

加藤 限られた資源の中でブランド化し価格を上げること。前浜の魚介類の増産対策として底引き漁を7〜8年休漁するなど、前浜から大陸棚に至るまで釧路沿岸での操業調整を図れないか。

町長 漁業協同組合と連携して対応したい。



浜いっばいに干された棹前昆布

一般質問

田甫 哲朗 議員



問 ヒグマ生息数の適正化は

答 道の保護管理計画で

田甫 今年、熊出没注意の看板が数多く見られ、民家近くや散歩中の人が目撃するなど、クマとの距離的バランスが崩れて来ていると思われる。人的被害が懸念される。

町長 目撃情報の件数と例年との比較および市街地近くでの件数は、24

年度38件・25年度31件・26年度41件・27年度37件であったが、今年11月末で83件と約2倍強である。

田甫 また、居住地近くでの情報は、茶内2・散布4・浜中1件が寄せられている。

町長 増えた要因分析は、ヒグマの生息が解明されていないので特定は難しいが、比較的小型の個体が多かったことから、警戒心の薄い親離れしたのクマが人里近くに寄って来た

と思われる。

また、道の調査では天候不順・台風などの影響から餌となるドングリなどの凶作も要因と考えられる。

田甫 GPSによる追跡調査とその活用は。

町長 NPO法人「南知床ヒグマ情報センター」が実施する事業で、囲いワナで捕獲したクマに発信機を装着し行動範囲・経路などのデータを集積することで、生態解明に役立てるもの。



民家近くで目撃されたヒグマ

平成26年8月に浜中町で捕獲した雄クマ1頭に取り付け27年6月まで追跡調査を実施した結果、4ヵ月で670キロ移動するなど広範囲に行動することが確認された。また、雌クマは割と限られた範囲で活動することが解っている。

さらに、位置情報と目撃情報から同一個体が複数回目撃されている例もあり、人との偶発的事故防止の応用も考えられる。

田甫 人的被害未然防止対策と生息数の適正化が必要と考えるが。

町長 数を減らす目的で、昭和41年から平成2年まで「春クマ駆除」が実施されていたが、保護の関係から以後は行われていない。

平成24年の生息数調査では、23年間で約1・8倍まで増えているとのこと。

今後、道が策定する保護管理計画の中に駆除数なども示される予定である。防止策としての特效薬はないが、注意喚起の充実に努めていく。

麗澤

「浜中学」を学んで

霧多布高等学校3年B組

雪田 千咲



浜中町は、自然が豊かでとてもよい環境にある町です。ラムサール条約に登録されている霧多布湿原、そこか

たがいに助け合い、あたたかい
まちをつくりましょう。
(町民憲章より)



丸山散布青年部が設置したイルミネーション

ら流れる水が育む海、豊かな牧草地帯があり、豊富な海産物やハーゲンダッツアイスクリームに使われる良質な牛乳が示すように第一次産業が盛んです。私たちは、この町の景色を普段何気なく見ていたり、食品を食べています。それらに改めて関心を持ち、より魅力のある町にしようと考えていることができたのは3年間「浜中学」を学んできたからです。私は、「浜中学」において1つの課題を設定しました。それは「どう浜中町の魅力を他者に伝えるか」ということです。しかし、それを考えるうえで始めに大きな壁にぶつかりました。それは、私自身が浜中町のことをよ

く理解していないということでした。そこで、気候や風土、湿原の学習、牛乳の生産過程や昆布の加工、ウニの折詰などを1、2年次で学びました。特に昆布の加工やウニの折詰は実際に企業で体験することで、いかによい食材を提供しているのか実感できました。また、3年次では学んだことをどう浜中町に活かすか、還元していくのかを学びました。

私の中で私は、課題の答えを導き出しました。それは「皆さんが思う浜中町の魅力プラスα」が重要ということ。例えば霧多布湿原の魅力を説明する際「ここがどう美しい」というのに加え「その美しさはこのような歴史があるからだ。」といった深い知識を身に着けることで、より魅力を他者に伝えることができます。学びを発表する中で、このことに気が付きました。

ていくことで、この学びを浜中町へ還元できたらと思っています。

○揮毫 書道部2年B組 鈴木 葵さん

○読み方 れいたく

○意味 共に助け合いながら学ぶこと。



表紙の写真

12月2日(金)に茶内第一住民センターにおいて茶内第一小学校・保育園・PTA主催の「親子もちつき大会」が行われました。

保育園児や小学生が順番に杵で餅をつき、出来上がった餅でお母さん方が雑煮や、きなこ餅、磯辺餅、バター餅などを作り、参加者約60人で食べました。

お代わりをする子ども達ばかりで、「来年もまたやりたい」という声がたくさん出しました。

あとがき

新しい年を迎えました。昨年、繁忙期の8月に、4つの台風が道東に襲来。漁業、農業、林業も暴風雨による被害を受け、経済的にも大変厳しい年でした。改めて自然の脅威を体感。一方、嬉しいことも!

日ハムの優勝でした。決して諦めない野球。大差を跳ね返し日本一に輝いたことは、多くの町民に勇気と希望を与えたと思います。今年、災害の無い平穏な日々であるよう祈りたい。

行政の課題は山積み。新庁舎の改築が始動する。全議員が結束し、協調性をもって立派な庁舎建設に向き合いたい。今年の干支は酉年。

大空をはばたく鳥のように全町民が健康で飛躍できる年になるよう念じている。議会広報も読みやすい紙面づくりに一層努力します。ので、ご愛読願います。

(委員長 川村)